

平成27年度第14回小牧市地域協議会市民会議会議録

- 1 開催日時** 平成28年3月16日(水)
午前10時～正午

開催場所 小牧市役所 本庁舎4階 404会議室

2 出席者

- (1) 市民会議委員 16名
- (2) 事務局 協働推進課：江口課長、伊藤課長補佐、堀田係長、葛谷
- (3) 傍聴者 1名

3 会議資料

会議次第

平成27年度陶小学校区地域協議会の取り組み
平成27年度篠岡小学校区地域協議会の取り組み
小牧原小学校区について

4 会議内容

- 1 会長あいさつ
- 2 地域協議会の進捗状況の報告
- 3 その他

【司 会】

それでは、ただいまから第14回地域協議会市民会議を開催いたします。

会に先立ちまして、皆様に市民憲章の唱和をお願いいたします。

恐れ入りますが、御起立をお願いいたします。

お手元の次第裏面をごらんいただき、私が先導させていただきますので、後に続いて御唱和をお願いいたします。

〔市民憲章唱和〕

【司 会】

ありがとうございました。御着席ください。

本日の予定につきましては、お手元の会議次第のとおりであります。

なお、本日4名の委員の欠席の御連絡を受けておりますので、御報告をさせていただきます。

はじめに稲垣会長から御挨拶をお願いいたします。

【稲垣会長】

皆さん、おはようございます。

本日は、年度末という大変お忙しい中、第14回地域協議会市民会議に出席していただきまして、誠にありがとうございます。

今回は昨年の7月28日に行っておるということでございます。本来であれば、地域協議会がもっと設立をされて、皆さん方にお集まりいただいて、報告するというのが良い結果ではないかなと考えておりましたけど、本日まで延び延びになりまして、誠に申しわけありません。

地域協議会も今のところ水面下ではいくつかの問い合わせがあるようですが、現在、2地区でございまして、当初の目標では7地区ぐらいで設立という希望を持っておりましたけれども、なかなか到達せずに、私たちの力不足かなと思っております。

また、市民会議の委員の皆さん方の任期は2年ですので、本年度で一つの区切りになるということですが、継続してやっていただける方は継続していただければいいと思います。

来年度から3期目を迎えるにあたり、事務局の方でもこの会議の回数を増やしていくことを考えてみえるようでございます。そんなことでございますので、また頑張って、来年度には3つ4つと設立できる地区が増えれば幸いに思う次第でございます。

いずれにしても、本日は皆さん方も今までためてみえました御意見を活発に出していただきまして、会を進めていきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしく願いしまして、挨拶にかえさせていただきます。

【司 会】

ありがとうございました。

それでは、会の議事進行は会長が行うこととなっておりますので、稲垣会長、よろしく願いいたします。

【稲垣会長】

それでは、早速会議を進めていきたいと思えます。

次第の2ということで、地域協議会の進捗状況の報告について、事務局、よろしく願いいたします。

〔事務局から資料に基づき説明〕

〔補足説明として陶小学校区と篠岡小学校区での活動DVDを放映〕

【稲垣会長】

ありがとうございました。

今、事例のDVDも交えて、説明がありました。それでは、どなたでも結構ですので、御意見や御質問等がありましたら、お願いします。

まず林委員、何かありませんか。口火を切っていただかないと、始まりませんので、よろしく願いいたします。

【林委員】

先ほどの「篠っ子クリスマス会&大餅つき大会」というところの中で、地域3あい事業との整合性や補助金の重複等についてどういう取り扱いかということをお教えいただきたい。

それから、これは報告になりますが、私は「ふらっとみなみ」でいろいろやらせていただいて、今年度は設立から6年経過し、活動を見直そうということで、「福祉生活部会」というのを立ち上げました。

ただ、何からやっというかということで、当面は参加していただける方に限って、お試しということで脳トレと、ちょっとした軽い運動、認知症予防ということで始めました。そうしたら非常に評判がよくて、お年寄りの女性の方が多くいますけど、毎回五、六十人の方が参加していただいて、是非継続してやってほしいということになりましたので、来年度は毎月23日に定例で開催していくということになったわけです。

自分がやってみて初めて分かったことは、福祉という分野は非常に幅が広い。地域で何に取り組むかが問題で、当面、一つの小さなことに取り組んで、その中からいろいろ広げていかないと、最初からあれもやりましょう、これもやりましょうといったら、とてもじゃないけど手がつかなくなってくる。

だから、我々は今年度は講義と講習とちょっとした脳トレから始めて、来年度はふらみなサロンというのをやって、その中で次の課題、お困りごとがあるから助けてほしい、こんなことがあるからこうやってやってほしい、あんなことがあるからこういうことを要望したいというような話が出てきたら、そちらへ広げていこうという流れを想定しています。

他市の事例等を聞くと、どこも5年とか10年という長い年月をかけて今日があるというようなことを言われておりますので、僕たちも最初から盛況にお客さんが来てやれるようなことはないんだろうと思いますので、利用者の方が一人でも多く広がっていくように地味にやっっていこうかなと思っております。以上、質問と報告です。

【事務局】

ふらっとみなみの報告もしていただき、ありがとうございます。

御質問のあった3あい事業との整合性ですが、同一事業への補助金の重複がないように確認しながらやっておりますので、篠岡小学校区については、地域協議会の助け合い交付金のほうを選択され、地域3あい事業補助金は申請されておられません。

【稲垣会長】

よろしいでしょうか。

【林委員】

ありがとうございます。

【稲垣会長】

そのほか、ありませんか。

【水野委員】

私、縁があって、陶小校区の方でしばらくお手伝いさせていただいたんですが、本当にここで今資料を見せていただき、夏まつりや防災訓練、それと花火大会、あとの2つについては後から起こされた事業なんですけれども、3つの事業について本当に立派に大きく成長していると感じました。

それから、やはり地域全体がとても温かいところで、私たちがお邪魔し

ているときでも、本当に皆さんが気軽に声をかけてくださって、ああ、いい地域なんだなということを感じていただきました。

区長さんたちのお力で、夏まつりも子ども、孫、おじいさん、おばあさん、本当に様々な年齢層が参加している。

それから防災訓練でも、ジュニア奉仕団とか中学生とかが地域の人に混ざってお手伝いをする。花火大会も、最初のスタートは本当に陶小の校庭でやっているような小さな花火でしたが、やっぱりこうしていろいろな繋がりの中で、地域の皆さんの協賛のもとにやれる大会まで成長したということは、いろいろ過程はあったと思うんですけど、本当に地域の皆さんが頑張っているんだろうなということを感じます。

もちろんいろんな地理的条件や、規模や地域性だとかが重なり、地域協議会を運営していくことはなかなか難しいと思います。

ただ、こうしていいサンプル、いい見本ができ上がってきましたので、ある程度時間はかかるんだという決心のもと、皆さんがお力を合わせて一歩ずつ進めていくことと、行政も本当にこういうことを真剣に取り組むのであれば、やはり先ほど言われました財政的支援、それから人的支援や地域の人材発掘のほうも力を入れていただきたいと思います。と思っています。

改めて陶小学校区がこんな立派なものを作っていらっしやると思って、また私も機会があったら是非参加したいなと思いました。

【稲垣会長】

どうもありがとうございました。

【旭委員】

よくわからないところがあって、的外れになる部分もあるかなと思いますけれども、まず地域協議会を立ち上げていくポイントが、この前の会議でもあったように、旗振り役をどうするかということになるんじゃないかなと思います。

それで今回、小牧原小学校区の資料がありますが、発起人が2人おみえになって、そこから進んできたということになるんじゃないかなと思います。

ですから、まずは発起人を各地区で本気になって探すということが1つと、それから発起人のサポートをどうするかということが必要だと思うんですよね。例えば小牧原小学校の発起人の方を呼んで、設立準備会までどう持っていくかというノウハウを教えてもらうとか、その前に地域協議会

の必要性なんかも、本日のDVDを見ると非常によくわかりますので、そういう発起人の勉強会をまずやって、いかに設立準備委員会まで持っていかかというところに力を入れていく必要があるのではないかと思います。

【事務局】

ありがとうございました。

まさにおっしゃるとおりでありまして、旗振り役をどなたに担っていただくかという点は、かなり苦勞するところでもあります。

【稲山委員】

今、陶小と篠岡小の活動を見せていただきました。なかなか立派にたくさんやってみえて、関わられた方は御苦勞があったろうと思います。

ただ、我々西部地区、これは南部地区さんも一緒なんです、コミュニティ運営協議会のほうで、内容的には全く同じような事業をずっとやってきておるんですね。

本来、地域協議会の中では、福祉的な話、地域のお困りごとや課題を解決するにはどうしたらいいとか、そういうところも突っ込んでやっついていかなければいけないということが頭にあるので、なかなか言い出せないところもあるんですが、こういう形であれば、やっていることを2つの校区に分けたら、別々で同じことをやることになってしまうから、結局、一緒でやっておるなら、今やっているものをそのままこの地域協議会という組織の中へ入れてもらって運用させてもらうことは認めてもらえないかというのが率直な意見ですが、その辺をちょっとお伺いしたいと思います。

【事務局】

ありがとうございます。

稲山委員の言われるとおり西部地区と南部地区についてはコミュニティ運営協議会が組織され、確かに地域協議会よりも以前から活動してみえるのは、十分承知しているところです。

ただ、市の考えとしては当面、まず小学校区をつなぐ場という趣旨で何とか進めさせていただけないかなというふうには考えております。

【稲垣会長】

少し私から質問ですが、もともとの西部と南部のコミュニティ運営協議会はどのような趣旨でつくられたのかを改めて伺いたい。

【事務局】

もともとは東部と味岡、北里にあります市民センターの設置という中で、

西部地区と南部地区につきましては、地域コミュニティの活性化の場という要素を入れた中で、2施設については設置をしてきたという経緯があります。そういうことで当初から運営協議会をつくっていただきまして、既存の市民センターとはちょっと違う動きの中で地域のための施設運営を行ってきたという性質のものになります。

【事務局】

増田委員、ご発言どうぞ。

【増田委員】

私も西部地区ですが、2つの小学校が一緒になってやっけてきている。これは将来的に地域協議会がそれぞれできたら、共催というか、合同でやるような形にすればいいんじゃないかなというふうに思います。

それと、さきほど林委員から南部では福祉のサロンの活動を始めたという報告がありましたが、各地区で民生委員が主体でサロン活動はいろいろやっけていて、そういう末端の活動はあちこちで進んでいると思います。

だから各地区である程度仕切っている人というか、まとめ役の方が、そういうものをより効果的に動かせるように、本来、地域協議会的な組織をつくってあげなきゃいけないような気がします。逆に末端から何かそういう組織的なものをつくってくれよというような動きが出てくるといいのかなあというふうに思います。

いろいろ見ると、ボランティアも、いろんな組織があちこちにいっぱいあって、それを統括しているところがどこもないのが現状です。一応、社会福祉協議会のボランティアセンターというある程度ボランティア組織をまとめているところがあるんですけども、地域へおけると、把握しきれないところがある。そういうのをまとめるには地域協議会はやっぱり必要だと僕は常々思っているんですけども、なかなかそれが難しい。いろいろ理由はあると思うんですけども、そういう末端の動きが出始めているので、せっかくだから、やっぱり何とかしたいなというふうに思っています。

【稲垣会長】

ありがとうございます。

ボランティアの話がありましたが、ボランティアセンター所長の水野委員、少し状況を教えてください。

【水野（和）委員】

もちろんある程度は把握していますが、現実的には1人で4つもやっていらっしゃる方があったり、本当に自主的に活動していらっしゃる、色々なケースがありますので、それを統括するというと難しくなりますね。

地区ボラというのがあるんですけども、縦割り横割りで、ごちゃごちゃになっているものですから、それを全て把握して、統括していこうとするのはちょっと難しいかなと思います。

【林委員】

南部地区は、南部地区ボランティア連絡協議会があって、一生懸命活動している方がおみえになるから、その方が中心となって、いろいろな事業を展開したりしています。

さきほどの南部地区のサロンの関係で、お手伝いしてくれるボランティアを募集しようということで今進めていて、市にボランティア保険の関係で相談へいったが、地区外の人を対象外だとかいろいろ制限があるという話をされた。ただ、実際の活動をするにあたり、あなたは小牧の人ですか、春日井の人ですか、あの人はだめですよ、いいですよ、もしくは自分で保険を掛けて来てくださいよ。何かあった場合は補償しませんよ。というようなことでかなりややこしい。

また、先ほどのDVDの事例で高齢者送迎サービスがあったが、その保険等もどうしているのか疑問に思う。現在、南部地区でも青パトをやっているが、保険は対物も対人も無制限の保険に加入している。

多くの人を集めて、何かをやろうとすると、そういったことも非常に大変になる。

【事務局】

事例であった地域は、NPO法人を取得され、事業展開しているということでございます。

法人格があれば、ある程度サービスとして展開していけるんですが、多分、任意団体でそういうことをやっていこうとすると、どうしても限界が出てしまうということになります。

【稲垣会長】

そのほか、御意見ございませんか。

【石原委員】

一色校区も、防災訓練だとか、運動会だとか、これに準ずるようなもの

をみんな個々にやっています。今までも区がまたがっているからどうだとか何とかありますが、そういうことをこの場でいくら言っても仕方がないから、進めていけばいいかなと思っています。

この前も防災訓練をやりましたけど、そのときもかなりの人が集まっていた。一色校区に対して説明はしてもらえていますか。

【事務局】

消防署の意向もありまして、今年度初めて区単位でやっていた防災訓練を小学校区単位でやったらどうだということで、一色小学校ではそういった動きがありました。区長さん方への地域協議会のお話という部分でいきますと、区長会全体でお話をさせていただいたことはあるんですけど、一色小学校区の区長さんだけが集まって、改めて勉強会や意見交換会をやったということはしていません。やはり先ほどから出ております地域の旗振り役をどうするかというところで、非常に悩ましいところです。

【石原委員】

地域にはいろんなグループ等がありますから、そういう方々にも声をかけ一緒に集めてやっていただくと早くできていくんじゃないかなと思いますが、いずれにしてもある程度、市の方で引っ張っていただかないと進んでいかないと思いますので、ぜひお願いします。

【事務局】

ありがとうございます。

【稲垣会長】

よろしいでしょうか。そのほか、ございませんか。

【中村委員】

三ツ瀧校区は、37年前から三ツ瀧学区コミュニティ推進協議会を発足しまして、現在も続けてやってきております。

三ツ瀧学区は5区ありますが、そのうち2区が役員の担い手がなく、継続できないという申し出がありました。

そういった関係で、5区の区長が大体7月ごろから10回ぐらい集まりまして、まずコミュニティ協議会を存続させるにはどういう方法があるかということいろいろと協議を重ね、何とか来年度も存続していけることになりました。

そして内容も地域協議会の趣旨に沿う形で、今までイベント型が中心だったんですが、やはりこれからは防災や福祉の課題についても考えていこ

うということになりました。そして、これは私の考えですけれども、ある程度安定してきたら、地域協議会に移行していこうというイメージで進めています。

【稲垣会長】

ありがとうございました。次に伊藤委員、何かございませんか。

【伊藤委員】

小木小学校区は6区で構成されておるんですけど、区長さん方と話し合っ
中で、まずは防災の切り口で進めており、小学校にも協力をお願いしながら、マニュアル作成等をやっていきたいという動きです。

【稲垣会長】

ありがとうございます。次に松永委員、何かございませんか。

【松永委員】

こういう会で、こういう水を差すようなこと言うことになってしまうので遠慮していたんですけど、実は小牧小学校区は、半分くらいの区長が1年交代、長くても2年交代ということで、地域協議会の説明なんかはよく来ていただきましたけれど、何となく理解したかなと思う頃には区長が交代してふり出しに戻るという感じで、地域協議会への具体的な動きはほとんどないという状況です。

【稲垣会長】

ありがとうございました。次に吉田委員、どうぞ。

【吉田委員】

今、松永委員が言われたように、約7割の区長さんが1年交代という状況ですから、大変恐縮ですけれども、区長さんは相談役ぐらいにしておいて、他の各種団体やボランティアもたくさんありますので、そういったところから地域のリーダー、まとめ役を見つけないとなかなか難しいと思います。

また小学校区という捉え方をしても、構成する区の多いところと少ないところでは、相当差があると思いますが、まずは事務局で人材発掘や各種団体への声かけ、協力依頼等をしていただいて、座談会的な話し合いを重ねながら、進めていってもらいたいと思います。これはひとつの意見ですが、よろしくお願いします。

【林委員】

区長さんは確かに単年度で交代してしまうが、現職の区長さんを差し置

いて、じゃあ仮に誰かがリーダーになって旗を振るかということになると、実際にはなかなかやりづらい面があり、結局、誰もやり手がいないということになってしまう。

やはり、現役の区長が旗を振って準備会を設立してもらい、区長の了解のもと、各種団体やボランティア等のできるだけ多くの人を巻き込むような形でないと絶対に進んでいけないと思う。

【稲垣会長】

ありがとうございます。

【伊東委員】

今、いろいろお話を聞かせていただいたんですけど、味噌小学校区の状況はどんなふうになっているのか教えていただきたいと思います。

【北澤委員】

味噌小学校区は、10区集まりまして、小学校区単位の防災訓練を今年度初めて開催し、約300人ぐらいの参加がありました。

ただ、防災訓練に関してはよかったと思うんですが、他の分野になると、小学校だと遠いから参加しづらい等のいろいろな意見もありますので、どう継続していくかが難しいと思いますが、年度ごとにリーダーをたててやっていくのが一番いいと思います。以上です。

【稲垣会長】

ありがとうございました。

では次に、丹羽委員、お気づきの点で結構ですが、何かございませんか。

【丹羽委員】

なかなか発言する言葉もなく、ただ聞き役に回っておりますが、保健連絡員は、大きく6地区のブロックに分かれて活動しており、私は北里地区で活動をしています

こうして見ると、やはりこの地域協議会は、区長さんが中心となり、声かけをしながら人員を集めて、大まかなグループをつくって活動する。

人員に関しても、地域によっては閉鎖的な地域もあるし、一概には言えないかもしれませんが、ある意味では半強制的に参加してくださいというようなことも考えながら、できるだけ多くの方に参加してもらう必要があると思います。

ですので、そういった人を育てることも一緒にやっていっていただきたいなというふうには思っております。以上でございます。

【稲垣会長】

ありがとうございました。では次に秦野委員、お願いします。

【秦野委員】

皆さんの話を聞いていると、地区によってさまざまな課題が、かなり格差というか、違いがあるわけですね。それに危機感を持ってやられていたところは、このような協議会を必要としないくらい進んでいるところもあるし、かといって、全然やらないままに高齢化が進んできた地区だとか、いろんな地区の様相が全然違う。

私はこまき市民活動ネットワークというところの代表で出席させていただいておりますが、先ほどもボランティアさんだとか、いろんな広域的な活動をしていらっしゃる方が小牧市内にどれぐらいいて、互いに横の連携ができていいのかどうなのかが把握しきれていない。あとは行政のいろんなシステムに従って、いろんな委員会が構成され、複雑な仕組みになっているのが今の状況ではないかと思えます。

こういった中で、地域協議会というのは、恐らくそれをリストラというか、もう一回再構築しないといけないことだと思うんです。

そうすると、ただ単に協働推進課が頭ごなしに区長さんだけに方向を向けていくら説明しても、先ほどお話があったように、リーダーシップをとる方が出てくれば進むんでしょうけれども、なかなかそういう環境にない今の状況だと、ちょっとやっぱり進みにくいと思うんですね。

やっぱりそれが進められるような、いろんなところからのサポート体制をちゃんとつくって、また事業を育てていくという感覚、この事業だったら小学校区単位の中でできるんだけれども、この事業は小さな地域の中の単位でやっていったほうがいい。やっぱり事業によって地域協議会がやらなきゃいけない事業が何なのかということを明確にすべきなんじゃないかなというふうに思います。

あと、実は私も味岡小学校区の中の一つの区に住んでいる住民なんですが、先日、初めて地域協議会の説明会が区の中でありました。区というか、区を構成する一つの自治会の中であったんですけども、この前やられた防災訓練の話がありました。ただ、私が住んでいる区というのは高齢化が非常に著しくて、約40年ぐらい前につくられた新興住宅で、皆さんの大半が後期高齢者に足を突っ込んでいるぐらいの区なんです。その中で、ひとり暮らしのところも多くて、防災訓練に来てと言われたって、小学校まで

行けないと。こんな中で協議会をどういうふうにやっていくんですか、みたいな話があったことも実は事実です。

やはり非常に小さい自治会だからこそ、やりたくてもできないことって結構あるんですね。そんな中でどういう単位だったらやりやすいのか、多分、地域によって抱えている課題ごとに個別の対応が必要なんじゃないのかなと思います。

ただ、その中で同時に人づくりをやっていかなきゃいけないということで、非常に難しいことだというふうに思いますが、まずはどこの地域が何を必要としていて、どんなことが今行われているのかということをもう少しいろいろ調査した上で、どんなことでサポートできるのかということをも明らかにしながら、こういった会議や地域協議会を進めるに当たっての参考資料として活用し、事例も入れながら、もっと複合的、総合的にやられるといいんじゃないかなというふうに感じました。以上です。

【稲垣会長】

ありがとうございました。

【落合委員】

この地域協議会という発想は、本来、地域住民が自分たちでやらなきゃいけないことを、たまたま市長がかわって、市の方針として地域協議会をつくるぞという形になったというだけの話だと思います。

これからは本当に少子高齢化が進み、このままほっておくと、皆の意識が変わらない限りは、区やその他各種団体の運営そのものがなかなか難しくなってくるなというふうに感じております。

そんな状況ですので、今のうちからいろんな団体でもOBの人をなるべく地域の行事に参加してもらおうようにして、そういうOBの方の中でやる気のある人や意識の高い人を何人か集めて、4年か5年がかりである程度の人数をストックしておかないと、この先どうにもならなくなると思います。

それともう1つ言えるのは、この地域協議会というのは、市が主導してやりきれるものではないし、本来、市の業務としてやる仕事じゃないものだと思うんで、非常に難しいんですね。

これは、自分もやり始めてこのまま続けられるかなと心配しておりますが、やはり根気よく時間をかけて、仲間を少しずつつくって、日常の活動の中に地域協議会も根づかせていくものだと思います。

今、陶地区では、将来的にどういう地域を目指していくかという地域ビジョンを策定していますけど、それができたら、みんなでこういう地域をつくりたいということを周知して、みんなで共有していこうと思っています。これをやらないと、ただ集まって何か交流するだけになっていけないので、将来に対する危機感という根っこの部分をしっかりしておく必要はあるだろうと思っています。

ちょっと取りとめのない話になりましたけれども、結局、市が前面に出て進めようと思っても、反発されたらそれ以上進められないし、やはり地域住民の意識が一番重要だと思います。

【稲垣会長】

ありがとうございました。

時間も参りましたし、皆さん方の御意見も出していただき、各地域の状況なんかも教えていただきました。

事務局も本日の御意見等をしっかりと受けとめていただいて、ここにお見えの皆さん方、私も含めてでございますが、一緒になって一つでも多くの地域協議会を立ち上げていただくということに責任を持ってやっていただきたいなと思っています。

そんなことで、いろいろありますけれども、皆さん方のいろいろの御意見、御助言をふまえ、事務局とも相談しながら、できるだけ多くの地域で地域協議会を進めていけるように努力していきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

それでは次に、その他ということで、事務局、何かありましたらお願いいたします。

【事務局】

いろいろと御意見いただきまして、ありがとうございました。

現状、なかなか進んでいかないというところがありまして、会議の中で秦野委員からもありましたけど、資料だとかテーマだとか、議論の焦点も絞り切れていないところがあることについては、大変申し訳ありません。

来年度につきましては、皆さんが一番関心の高い分野は「防災」だろうなというところがひとつありまして、あと、待ったなしというところできまると、専門職が行うようなものではなくて、日常生活のお困りごと解決という意味での「地域福祉」、日常生活の延長線上にあるところに対してどう取り組んでいくかというところが課題になってくるかなと思います

ので、このあたりを視点を据えながら資料等を整えさせていただいて、会議のほうを進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

また、事例のDVDの中にも、少しコミュニティサービスという言葉もあったんですが、こういったところも含めて考えていけたらなというふうに思っております。

最後に、会長からもお話しがありましたように、来年度は委員改選の年ということになります。可能でありましたら、できるだけ継続していただきまして、引き続き御意見いただけるとありがたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

【稲垣会長】

ありがとうございました。

それでは、第14回地域協議会市民会議をこれで終了させていただきたいと思えます。

長時間に亘り、どうもありがとうございました。